

明日ありと 思う心の仇桜 夜半に嵐の吹かぬものかは

あなたの「生きる」を支えるお寺

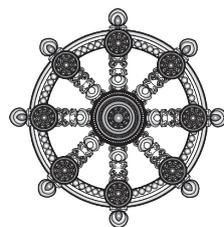
毎月 25 日発行 しょう しき しょう こう

お寺のかわら版

じゆんしょうじほう

純正寺報

青色青光 No.347



発行責任者：浄土真宗本願寺派 護法山 純正寺 住職 釋 覚恵 (漢見覚恵)

〒 522-0075 滋賀県彦根市佐和町 3-29 TEL (0749)-22-7888 FAX (0749)-47-4829

メールアドレス :purity.temple.since1499@gmail.com

※この紋章は「法輪」といい、車の輪が回り続けるように未来に向かって永遠に弘められていく仏教を象徴した、世界中の仏教徒共通のシンボルです。

永代経法要 (定期門徒総会)

◎ 4月29日(火・祝)

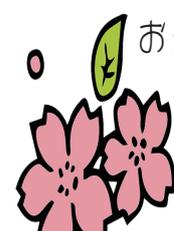
13:30 勤行『正信念仏偈和讃』

14:10 法話「お念仏に生きる」

15:00 定期門徒総会

16:00 恩徳讃、閉会

お釈迦さまご降誕のお祝い



はなまつり

4月7日(月)14:00~16:00

- 花御堂を花飾り
- おつとめ
- 法話「お釈迦さまのご降誕」
- 誕生仏様に甘茶かけ
- さくら餅と甘茶でお祝い
- お土産ビンゴゲーム



4月28日(月)10:00~12:00 13:30~15:30

こんき常例布教

法話 純正寺住職

「ノルウェー見聞録」

YouTube 純正寺チャンネル



LINE 純正寺公式アカウント



純正寺公式ホームページ



facebook 常朝事チャンネル



純正寺の法要は「YouTube」で、常朝事は「facebooklive」で、それぞれ生配信でも録画でもご参拝・お聴聞していただけます。

住職法話 我聞如星

われかくのごとくきく

遠く出遇いの宿縁をよるこぶ②

私が何故、お念仏に生きるようになったのか

初めての「看取り」

さて、そのような考えを両親が持っているともいえないとも知らず、当時の私は高校卒業と同時に寺を出る心の準備をしていました。しかし、そんな私にあの事件が起こったのです。これこそ、正しく命懸けの仏縁です。

私が高校生の当時、住職は祖父でした。父が、滋賀教区教務所に勤務する多忙な毎日であったため、私は「おじいちゃん子」として育ちました。祖父は、本堂のないお寺に住まねばなら

ない現状をいつも気にしていたようで、私が小学生の時

には「お前が中学校に上がるまでには新しいお寺が立つからね」と私に話していました。そうならないまま中学生になった私に、祖父は「すまないね、お前が高校に行くまでにはお寺が新しくなるからね」と話しました。しかし、そうはならないまま私は高校へ進学しました。

そして、昭和五十八年三月、高校二年生の学年末のある日、祖父がたった二日の病で亡くなったのです。

その前日まで元気にご門徒参りをしていた祖父が、突然腹痛を訴えました。往診に来てくださったかかりつけの医師に「二、三日安静にしていれば回復するでしょう」と言われ、ホッと安心した二日後、自宅の自室で、たまたま祖父の様子を見に行った私の目の前で、祖父は息を引き取ったのです。

命がけのお育て

もちろん、家族の臨終を看取るのはそれが初めてでした。高校生ですから、生まれてきた命は必ずその終わりの日が来ることを頭では理解してはいましたが、それは他人事でしかなく、自

分と自分に身近な人には死は当分訪れないというような根拠のない思い込みを持っていた私には、この出来事にはわかには受け止めることなどできない大事件でした。

数日前まで元気だった大好きな祖父を、心の準備もできないままに看取らねばならなかったことは、私の心身に大打撃を与えました。精神的には今で言うところの「病的うつ」の状態に。身体的には「神経性胃炎」と診断されて、食べ物や喉を通らない日々が数ヶ月続きました。胃の痛みと、胸にぽっかりと穴が開いたような喪失感に、私は心身ともへへとへとなりました。

ところが、この心神喪失状態を経て、ようやく祖父の死を自分なりに受け止められるようになってきた高校三年生の秋。いよいよ進路の選択をする時期です。私の心に変化が起こっていました。それまで、私の進路希望は体育大学一択でした。しかし、その時私の気持ちの中に「仏教の勉強がしたい」と言う思いが育っていたのです。多分、祖父をなくした喪失感を克服するために、仏教が何かしら有意義であるのではないかという、当時の私には言葉にできないような気持ちにだっただけだと思います。その気持ちは、いつの間にか体育大学へ行きたい気持ちを超えて、龍谷大学を受験した

い、いや龍谷大学に仏教の勉強に行きたいという気持ちへと変化していったのでした。

小さい頃から、お寺も僧侶も仏教も嫌いという気持ちで過ごしてきた少年期。しかし、これから青年期に移っていくというそのタイミングで、仏教に強い関心を持つようになるという、我が身の上に起こった大きな転期。今振り返ると、これは祖父が命をかけて孫育てしてくれたのだと思うのです。

厳しい現実の中に

そして、私はその気持ちに正直に龍谷大学に進学し、真宗学を専攻することにな

りました。自ら仏教を学びたいとの思いになっての大学生生活は、高校までの「やらなければならぬ勉強」とは全く違う充実したものでした。

龍谷大学での真宗学の学びの中で、最も我が身に響いた浄土真宗の教えは「還相回向^{げんそうえこう}」でした。当時は、なぜ還相回向が響いてくるのかがよくわかりませんでした。今から振り返るとお浄土に往生した人が悟りのはたらきとなって再びこの世に還^{かえ}ってくるのが、亡くなった祖父と再び会えることなのだという感覚になったからだと思います。しかし、そのように浄土に生まれていくのいのちを今、私も生きているのだという

感覚はまだ曖昧なのでした。

そうして、楽しいながらも疑問を抱えていた大学生活も最後の年の春、父が病に倒れました。父は、昭和十年に生まれた時から母子感染によるB型肝炎ウイルスの保菌者でした。私が生まれて間もなく急性肝炎を発症していましたが、仕事の多忙を理由にかかりつけ医に通院するだけで入院治療を受けなかった結果、病状は慢性肝炎へと悪化していきました。さらに、昭和五十八年に祖父が往生したことにより住職に就任した父は、戦時中に失った本堂の復興事業に着手することになり、我が身を振り返ることなく、いよいよ多忙を極めることになっていったのです。

次号に続く



4月の皆の宗サンガ

サンガ(僧伽)とは、利害関係を越えた、互いに支え合う、安心できる本当の人のつながり「お念仏の家族」をあらわしています。純正寺のすべての活動は、あなたにも仏縁が整って、まことの同朋(とも)の出会いが広がっていくことを願い、運営されています。



今月のエコキャップ 一、六八〇、一八八個

三寒四温の日々は、多くの人に体調不良を起こさせています。花粉症も心配ですね。体調管理に心がけましょう。

キッズサンガ「ほとけの子ども会」

5日(土)・12日(土)
9:00~12:00 10:00~12:00
就学前・小・中学生対象

5日は永楽屋さんの花まつりイベントへの参加。12日は、通常の子ども会です。

ゆっくり学ぼう家「寺子屋」

13日(日)・27日(日)
15:00~17:00
小学生・中学生対象

教科書に沿った問題集や宿題、自主勉や読書に取り組みます。休憩時には、おやつもあり。

みんなの食堂ビハーラ

10日(木)・24日(木)
17:00~19:00
年齢・性別は問いません

子どもからお年寄りまで、誰でも参加できる楽しい食事と学習の時間。事前にお申し込みください。

世のなか安穏なれ「ビハーラ彦根」

13日(日)
18:00~20:00
年齢・性別は問いません

参拝者の提起や質問を手がかりに、車座になって聴き合いながら、ビハーラの心を学びます。

ヨガ風ストレッチ「びはーら体操」

8日(火)・15日(火)・22日(火)
10:20~11:30
年齢・性別は問いません

お香とオルゴールの音色の中でのヨガ風ストレッチで、強くて柔らかな身体と心を作りましょう。

「月例法話座談会」

17日(木)
14:00~16:00
年齢・性別は問いません

日常の「何故？」を通して、お念仏に生きる尊さと確かさを座談会形式で感じ学びます。

「永代経法要」「定期門徒総会」

29日(火・祝)
13:30~16:00
純正寺門徒会所属門徒

前半の永代経法要は『正信偈和讃』のお勤めと住職法話。後半は、定期門徒総会です。

みんな法友こんき常例布教

28日(月)
10:00~12:00.13:30~15:30
年齢・性別などは問いません

所属寺の枠を超えて、法の朋ができる法座です。ご法話は、純正寺住職の「ノルウェー見聞録」です。

清々しい朝のおつとめ「常朝事」

年中毎朝 6:00~6:50
年齢・性別など問いません

『正信念仏偈』と『和讃』の繰り返し読み。『御文章』の拝読と住職の法話があります。Facebookでライブ配信もしています。



大きくなりました



白線も引きました

また、工事に伴い掲示板が新調されました。これは、純正寺責任役員の松宮一さんが、昨年ご往生された松宮美千子さんへのご報告で寄贈下さったものです。以前の掲示板より掲示面が広くなり、より沢山の掲示ができるようになりました。

ご報告

本堂横の駐車場のアスファルト舗装工事がようやく完成しました。工事前より狭くなり、普通乗用車二台と軽乗用車二台、予備スペース一台分の駐車区画となりました。